

「ありのままの靖國神社」
～それを通して見えてくる「日本」～
2015年5月13日（火）JGA 第一支部研修レポート

良く晴れた研修日和、委員含め総勢48名の参加者は、まず昇殿正式参拝を体験しました。お祓いを受け、代表者が榊を奉納しました。ニュースでよく目にするあの通路を実際に歩き、全員感慨深げです。

次いで後藤智司権禰宜のご案内で、靖國神社の内苑と遊就館を拝観しました。内苑では普段見過ごしやすい本宮、鎮霊社、神池、相撲土俵の他、有名な桜の標準木も確認しました。

（東京の桜の開花の基準木▶）



最後の遊就館は歴史博物館ではなく、あくまでも神社に祀られている英霊にまつわる資料を展示している施設です。若くして戦場に散った方々の遺品に涙ぐむ参加者もいました。歴史や神道の知識が必要な上、何かと物議の対象になり、日本人一般の意見や見解について質問されるなど、難しい靖國神社ですが、権禰宜のご案内で拝観した印象は、戦争体験者が減っている今、何よりも平和の尊さを実感する場で、決して戦争を賛美する施設ではないというものでした。以上。